

トレンド・キャッチ戦略ファンド（愛称：クラッシュハンター）

設定来の運用状況について

2021年6月16日

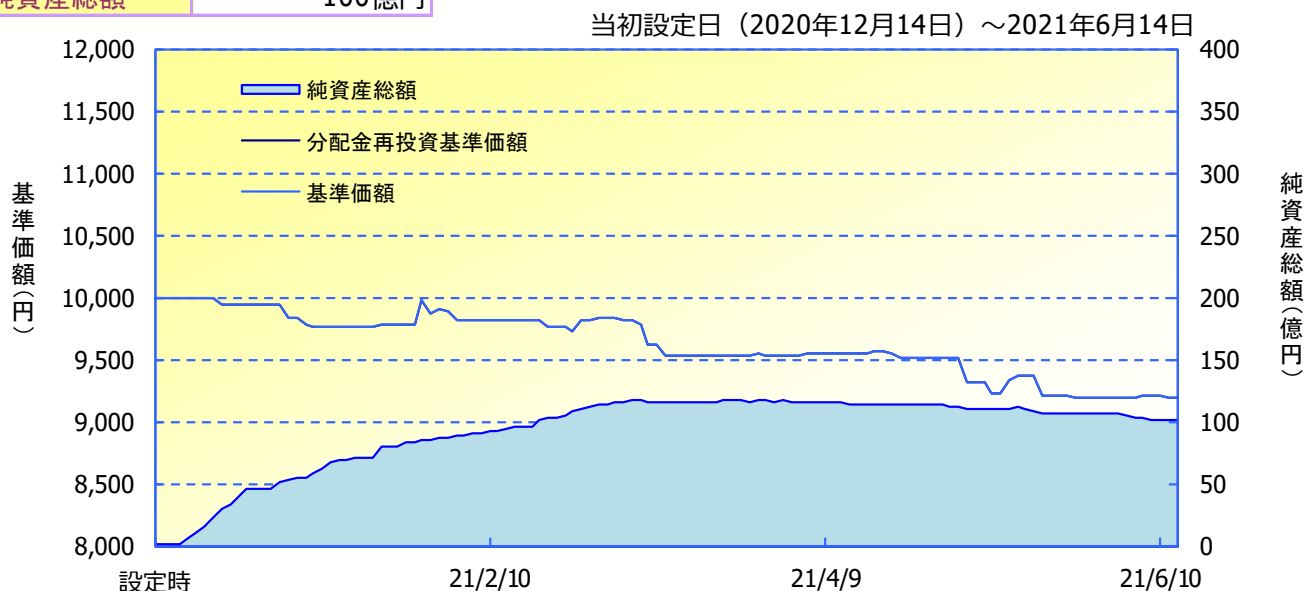
平素は当ファンドをご愛顧賜り、厚く御礼申し上げます。

当ファンドの設定来の運用状況などについてお知らせいたします。

■ 基準価額・純資産の推移

2021年6月14日現在

基準価額	9,195 円
純資産総額	100億円



※ 「分配金再投資基準価額」は、分配金（税引前）を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。
 ※ 基準価額の計算において、実質的な運用管理費用（信託報酬）は控除しています（後述のファンドの費用をご覧ください）。
 ※ 過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

ファンド設定来のトレンド・キャッチ戦略（当戦略）のポジション構築状況などについて

当戦略は、2020年12月15日～2021年5月28日の113営業日中、27営業日において買建てポジション（平均ポジション量：129%）を構築、17営業日において売建てポジション（平均ポジション量：-131%）を構築、69営業日においてポジション構築無しとなりました。

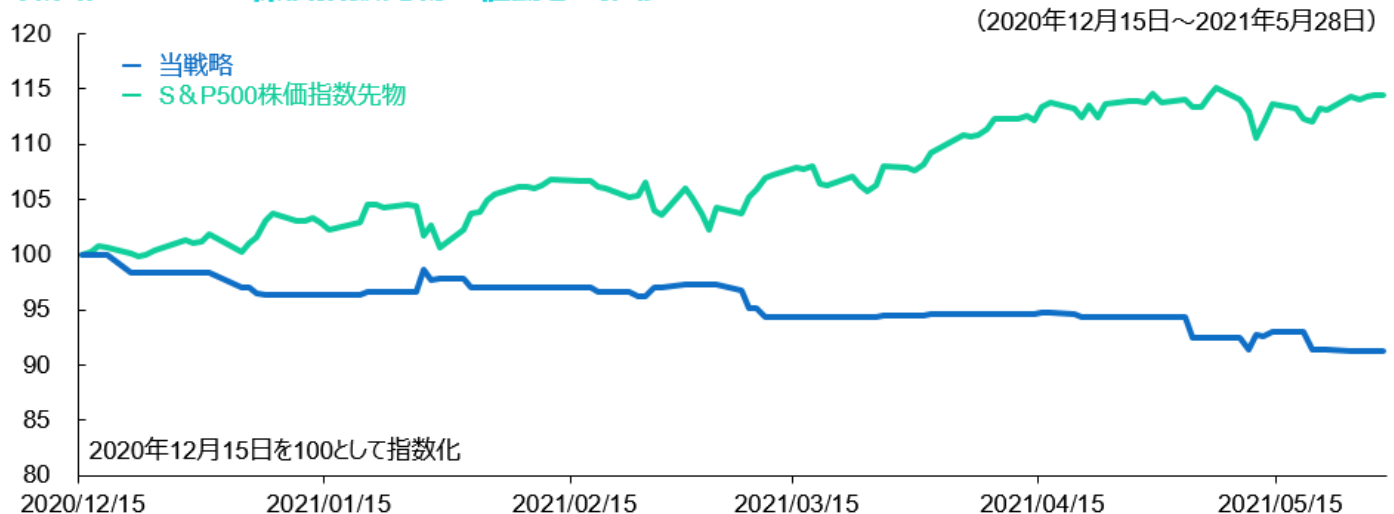
次ページ以降では、2020年12月15日～2021年5月28日の期間で、S&P500株価指数先物の単日リターンがワースト10となった営業日における当戦略の日中の動きについてご説明いたします。

※当戦略の営業日とは、S&P500株価指数先物の取引が行われた各日を指します。

※当戦略の各データがファンドの基準価額へ反映するのには遅れが生じます。

全営業日 113	買建て	売建て	合計
営業日数	27	17	44
プラスリターン の日数	8	5	13
勝率	29.6%	29.4%	29.5%

当戦略とS&P500株価指数先物の値動きの推移



ファンド設定来の当戦略の状況と市場環境について

当該期間において、米国株式を中心とした市場環境は、堅調なゴルディロックス相場（適温相場）にインフレ懸念が垣間見える状態でした。米国企業の業績は堅調である一方、コロナ・ショックからの戻りをけん引してきたテクノロジー・セクターを中心としたグロース株式については、バリュエーションに懸念が生じ始め、FRB（米国連邦準備制度理事会）の金融政策緩和縮小が焦点となりました。

現在のグロース株式のバリュエーションは、低金利によって支えられている側面があるため、新型コロナウイルスのパンデミック（世界的大流行）から正常化への道筋を辿る過程で経済成長期待やインフレ懸念が高まった場合、FRBによる金融緩和縮小の前倒し、ひいてはグロース株相場の終焉（しゅうえん）を迎えるというのが一番のリスクシナリオとして認識されていると考えられます。

しかしながら、当該期間においては、単発的にそのようなリスクシナリオが意識され、相対的に小さな下落が発生したものの、本格的なショックへとつながる局面は訪れませんでした。そのような環境下においては、リーマン・ショックや米国国債の格下げなどの大きな下落局面（ショック）とは異なり、日中に一度発生した下落トレンドが消失、反転する場面が度々みられ、当戦略にとっては逆風の環境となりました。

S&P500株価指数先物と当戦略の単日リターン

ファンド設定以降（2020年12月15日～2021年5月28日）の期間において、S&P500先物の単日騰落率ワースト10を抽出

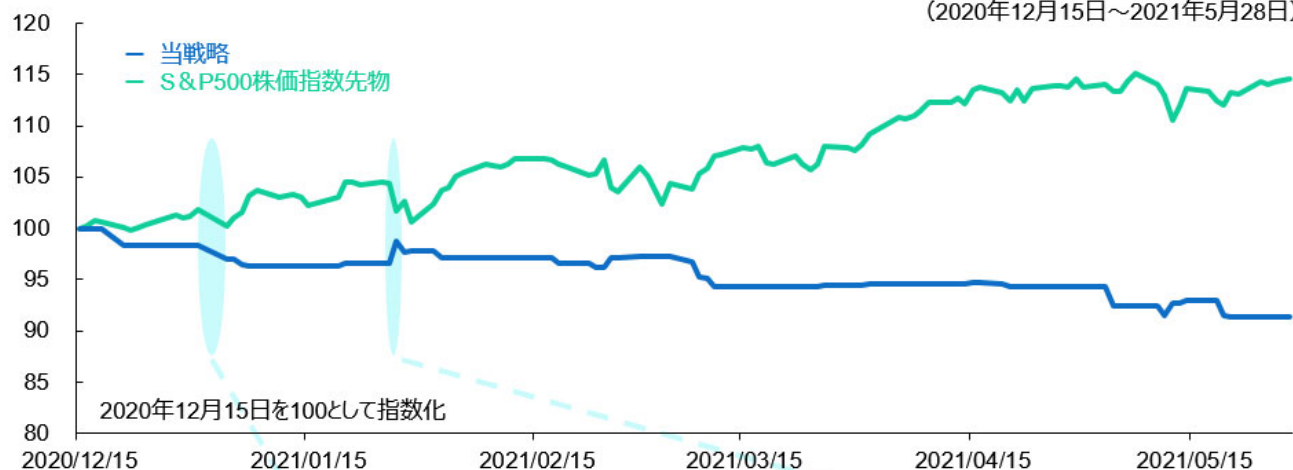
日付	S&P500先物の リターン	当戦略 のリターン
2021年1月27日	-2.6%	2.2%
2021年2月25日	-2.4%	0.9%
2021年5月12日	-2.1%	1.4%
2021年1月29日	-2.0%	0.2%
2021年1月4日	-1.6%	-1.3%
2021年3月18日	-1.5%	0.0%
2021年3月4日	-1.3%	0.0%
2021年3月3日	-1.3%	0.0%
2021年5月10日	-1.0%	0.0%
2021年4月22日	-0.9%	0.0%

（出所）ブルームバーグ、シティグループ・ファースト・インベストメント・マネジメント・リミテッドのデータを基に大和アセットマネジメント作成、S&P500先物のリターンは米ドルベース

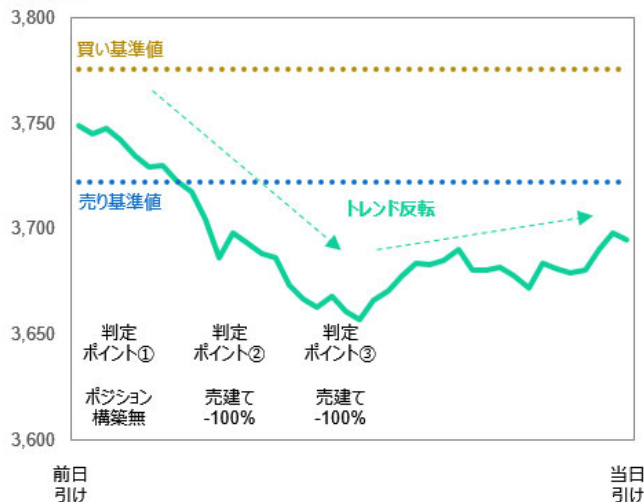
※当戦略のパフォーマンスは、トレンド・キャッチ戦略ファンドの投資対象ファンドである「米国株式イントラデイ・モメンタム・ファンド（円建て・クラスA）」におけるスワップ取引の参照指数である「米国株式イントラデイ・モメンタム・レバレッジド指数（円建て・エクセスリターン）」のパフォーマンスであり、トレンド・キャッチ戦略ファンドのパフォーマンスではありません。

当戦略とS&P500株価指数先物の値動きの推移

(2020年12月15日～2021年5月28日)

S&P500
先物価格

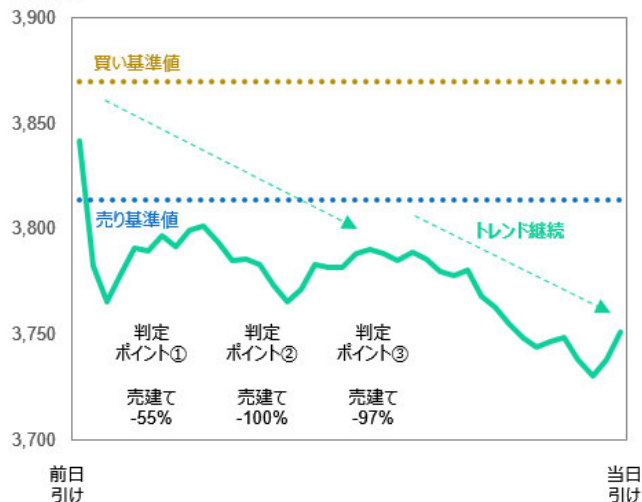
2021年1月4日の値動き



合計 ポジション量	-200%	当戦略	-1.3%	S&P500 先物	-1.5%
--------------	-------	-----	-------	--------------	-------

S&P500
先物価格

2021年1月27日の値動き



合計 ポジション量	-252%	当戦略	+2.2%	S&P500 先物	-2.6%
--------------	-------	-----	-------	--------------	-------

2021年1月4日の値動き

この日の米国株式市場は、新型コロナウイルスの感染拡大や追加経済対策の実現性に対する懸念からリスクオフの下落トレンドとなりました。しかしながら、当戦略が売建てポジションを構築した後は、目立ったニュースもない中、押し目買いなどにより上昇トレンドに転換したため、当戦略はマイナスのリターンとなりました。

2021年1月27日の値動き

この日の米国株式市場は、新型コロナウイルス、特に変異種の感染拡大懸念や、ワクチン供給において一部遅れが生じていること、さらには空売りの多い銘柄の急騰で多額の損失を計上した運用会社があり市場が不安定化したことなどを背景に下落トレンドとなりました。緩和的な金融政策の維持などのニュースもトレンドを反転させるには至らず、当戦略は売建てポジションの構築によりプラスのリターンとなりました。

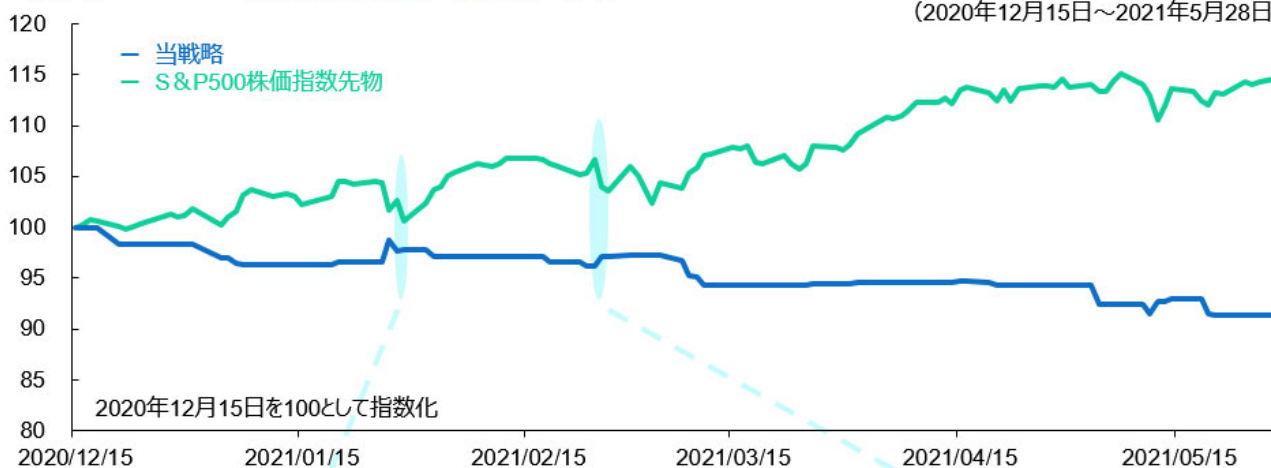
(出所) ブルームバーグ、シティグループ・ファースト・インベストメント・マネジメント・リミテッドのデータを基に大和アセットマネジメント作成、S&P500先物のリターンは米ドルベース

※当戦略のパフォーマンスは、トレンド・キャッチ戦略ファンドの投資対象ファンドである「米国株式イントラディ・モメンタム・ファンド（円建て・クラスA）」におけるスワップ取引の参照指数である「米国株式イントラディ・モメンタム・レバレッジド指数（円建て、エクセスリターン）」のパフォーマンスであり、トレンド・キャッチ戦略ファンドのパフォーマンスではありません。

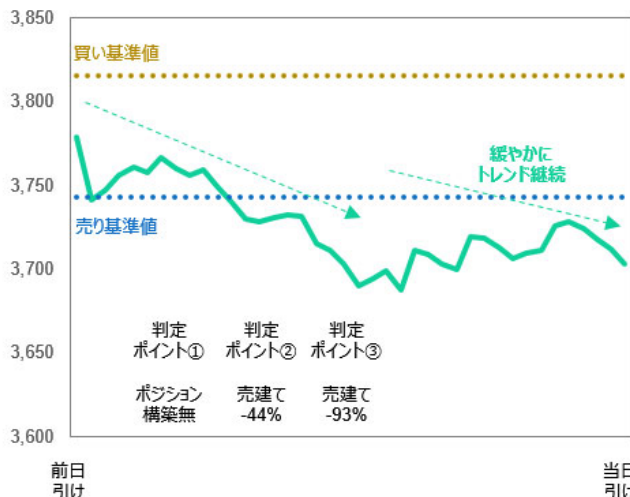
※グラフ中における各判定ポイントの位置はおおよその目安を示したものです。各判定ポイントは一定の範囲内で毎営業日ランダムに変化し、正確な時刻は非公表となっています。

当戦略とS&P500株価指数先物の値動きの推移

(2020年12月15日～2021年5月28日)

S&P500
先物価格

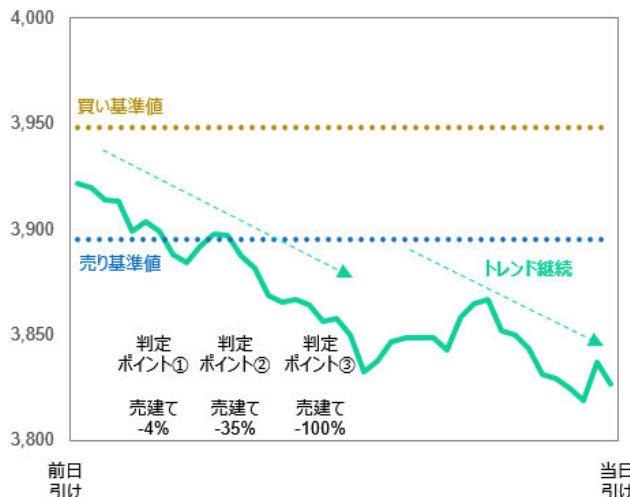
2021年1月29日の値動き



合計 ポジション量	-136%	当戦略	+0.2%	S&P500 先物	-2.0%
--------------	-------	-----	-------	--------------	-------

S&P500
先物価格

2021年2月25日の値動き



合計 ポジション量	-139%	当戦略	+0.9%	S&P500 先物	-2.4%
--------------	-------	-----	-------	--------------	-------

2021年1月29日の値動き

この日の米国株式市場は、一部の個人投資家による取引が市場に混乱を招いているとの懸念が続く中、新型コロナウイルスのワクチン接種進行の見通しが不透明なことも意識され、下落トレンドとなりました。当戦略が売建てポジションを構築した後も緩やかにトレンドは継続しましたが、一時的に反転する局面もあったため、当戦略は限定的なプラスのリターンとなりました。

2021年2月25日の値動き

この日の米国株式市場は、経済環境の改善を受け、現在の緩和的な金融政策の修正が前倒しで進むのではないかと懸念が高まり米国10年物国債の利回りが大幅に上昇するなど、金利が大きく上昇したことが警戒され、下落トレンドとなりました。当戦略が売建てポジションを構築した後もトレンドは継続しましたが、一時的に買い戻しによる反転がみられたため、当戦略は限定的なプラスのリターンとなりました。

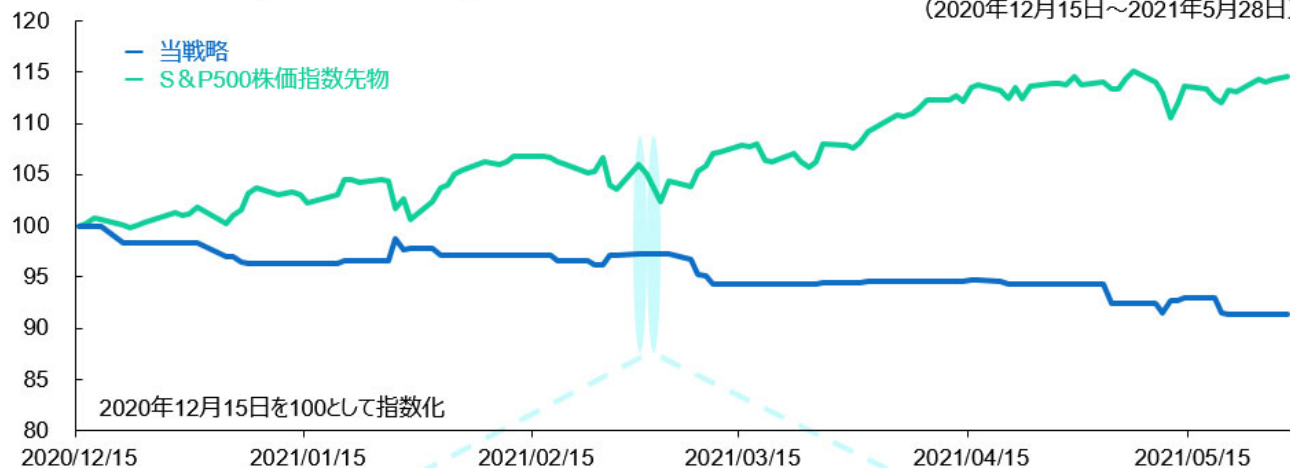
(出所) ブルームバーグ、シティグループ・ファースト・インベストメント・マネジメント・リミテッドのデータを基に大和アセットマネジメント作成、S&P500先物のリターンは米ドルベース

※当戦略のパフォーマンスは、トレンド・キャッチ戦略ファンドの投資対象ファンドである「米国株式イントラディ・モメンタム・ファンド（円建て・クラスA）」におけるスワップ取引の参照指数である「米国株式イントラディ・モメンタム・レバレッジド指数（円建て、エクセスリターン）」のパフォーマンスであり、トレンド・キャッチ戦略ファンドのパフォーマンスではありません。

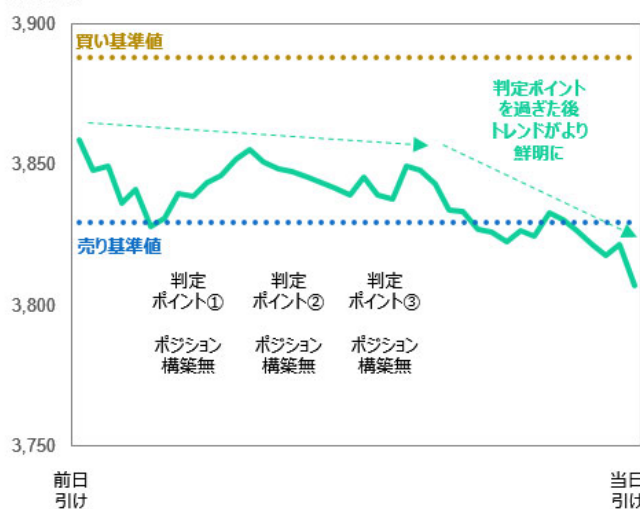
※グラフ中における各判定ポイントの位置はおおよその目安を示したものです。各判定ポイントは一定の範囲内で毎営業日ランダムに変化し、正確な時刻は非公表となっています。

当戦略とS&P500株価指数先物の値動きの推移

(2020年12月15日～2021年5月28日)

S&P500
先物価格

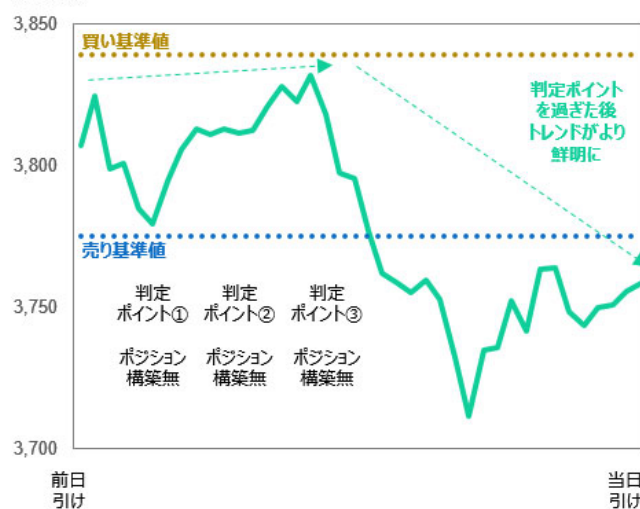
2021年3月3日の値動き



合計 ポジション量	0%	当戦略	0%	S&P500 先物	-1.3%
--------------	----	-----	----	--------------	-------

S&P500
先物価格

2021年3月4日の値動き



合計 ポジション量	0%	当戦略	0%	S&P500 先物	-1.3%
--------------	----	-----	----	--------------	-------

2021年3月3日の値動き

この日の米国株式市場は、欧州市場の金利上昇を受けて米国でも金利が上昇したため、下落しました。特に金利上昇によるバリュエーション懸念の大きいテクノロジー・セクターが大きく下げる展開となりましたが、下落トレンドが本格化したのは判定ポイント③を過ぎた後であったため、S&P500株価指数先物は約1.3%のマイナスリターンとなったものの、当戦略はポジション構築無しとなりました。

2021年3月4日の値動き

この日の米国株式市場は、FRBのパウエル議長による発言が、市場の期待よりもややタカ派寄り（金利上昇への対応姿勢を強めなかった）となったため、金利上昇により売られる展開となりました。特に判定ポイント③を過ぎた後、そのようなトレンドが明確になったため、S&P500株価指数先物は約1.3%のマイナスリターンとなったものの、当戦略はポジション構築無しとなりました。

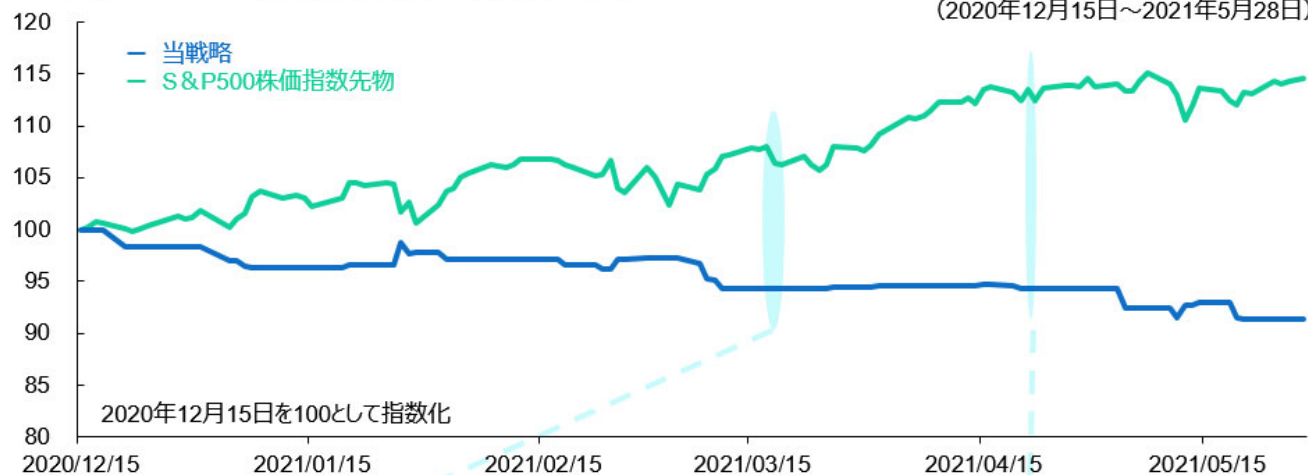
(出所) ブルームバーグ、シティグループ・ファースト・インベストメント・マネジメント・リミテッドのデータを基に大和アセットマネジメント作成、S&P500先物のリターンは米ドルベース

※当戦略のパフォーマンスは、トレンド・キャッチ戦略ファンドの投資対象ファンドである「米国株式イントラディ・モメンタム・ファンド（円建て・クラスA）」におけるスワップ取引の参照指数である「米国株式イントラディ・モメンタム・レバレッジド指数（円建て、エクセスリターン）」のパフォーマンスであり、トレンド・キャッチ戦略ファンドのパフォーマンスではありません。

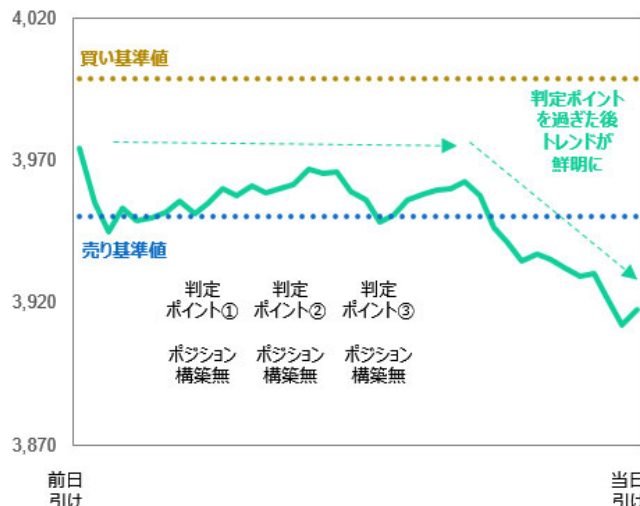
※グラフ中における各判定ポイントの位置はおおよその目安を示したものです。各判定ポイントは一定の範囲内で毎営業日ランダムに変化し、正確な時刻は非公表となっています。

当戦略とS&P500株価指数先物の値動きの推移

(2020年12月15日～2021年5月28日)

S&P500
先物価格

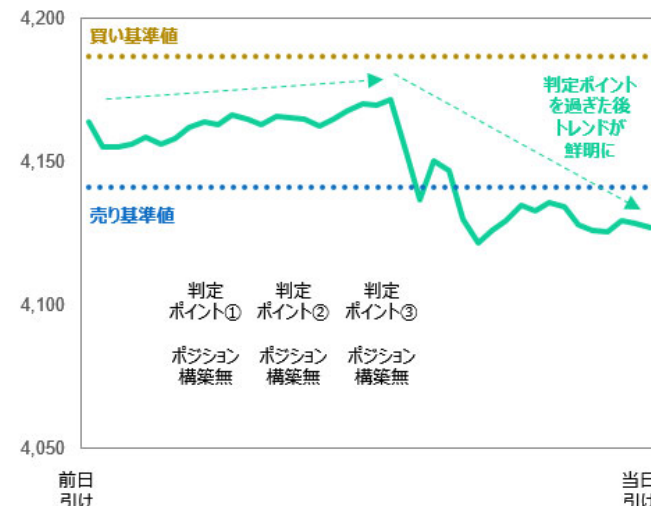
2021年3月18日の値動き



合計 ポジション量	0%	当戦略	0%	S&P500 先物	-1.5%
--------------	----	-----	----	--------------	-------

S&P500
先物価格

2021年4月22日の値動き



合計 ポジション量	0%	当戦略	0%	S&P500 先物	-0.9%
--------------	----	-----	----	--------------	-------

2021年3月18日の値動き

この日は、FRBが景気の過熱を容認しているとの見方から、成長とインフレが加速するとの観測が強まりました。インフレ懸念から米国債利回りが急上昇したことに加えて、四半期に一度オプションと先物取引が期限を迎えるタイミングであったため、米国株式の下落トレンドが加速したものの、当戦略の判定ポイントを過ぎていたため、売建てポジションは構築されませんでした。

2021年4月22日の値動き

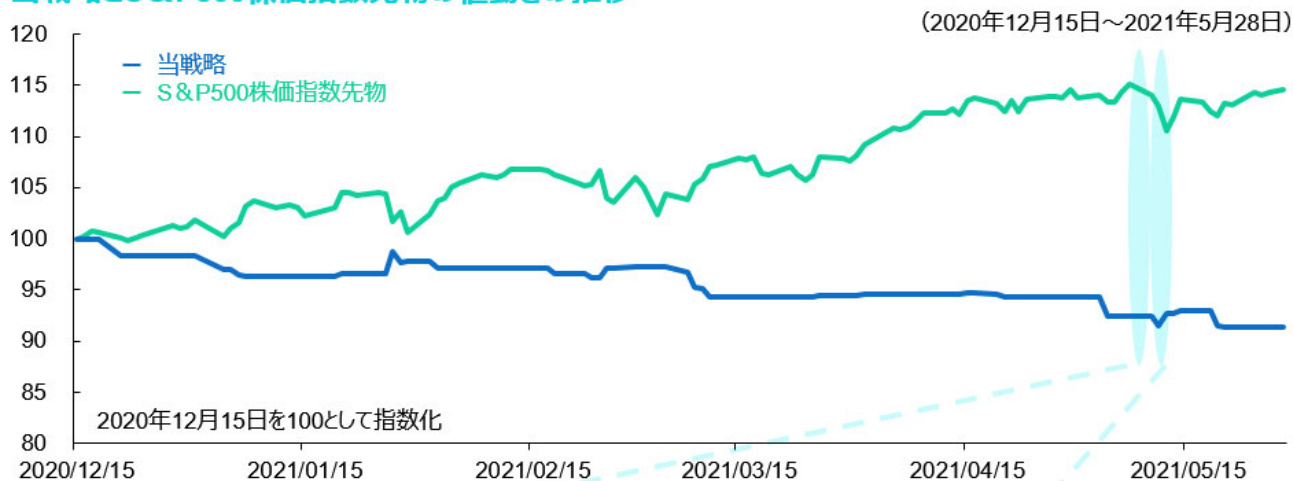
この日の米国株式市場は、当初横ばい、緩やかな上昇トレンドという動きでした。しかしながら、日中にバイデン米大統領による富裕層へのキャピタルゲイン税引き上げ提案が報道されて以降は強い下落トレンドが発生したものの、当戦略の判定ポイントを過ぎていたため、売建てポジションは構築されませんでした。

(出所) ブルームバーグ、シティグループ・ファースト・インベストメント・マネジメント・リミテッドのデータを基に大和アセットマネジメント作成、S&P500先物のリターンは米ドルベース

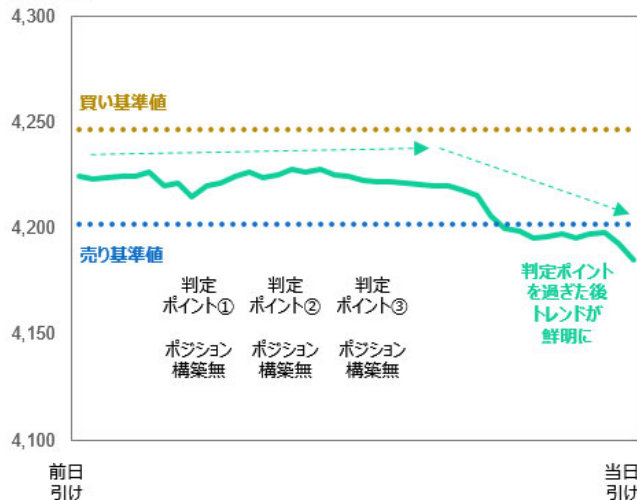
※当戦略のパフォーマンスは、トレンド・キャッチ戦略ファンドの投資対象ファンドである「米国株式イントラデイ・モメンタム・ファンド（円建て・クラスA）」におけるスワップ取引の参照指数である「米国株式イントラデイ・モメンタム・レバレッジド指数（円建て、エクセスリターン）」のパフォーマンスであり、トレンド・キャッチ戦略ファンドのパフォーマンスではありません。

※グラフ中における各判定ポイントの位置はおおよその目安を示したものです。各判定ポイントは一定の範囲内で毎営業日ランダムに変化し、正確な時刻は非公表となっています。

当戦略とS&P500株価指数先物の値動きの推移

S&P500
先物価格

2021年5月10日の値動き

合計
ポジション量

0%

当戦略

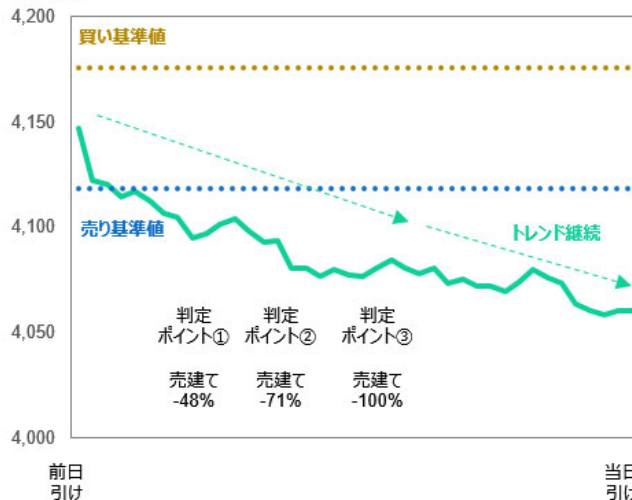
0%

S&P500
先物

-1.0%

S&P500
先物価格

2021年5月12日の値動き

合計
ポジション量

-219%

当戦略

+1.4%

S&P500
先物

-2.1%

2021年5月10日の値動き

この日の米国株式市場は、物価上昇への懸念が広まる中、テクノロジー銘柄を中心としたグロース株への売りが膨らみました。しかしながら、下落トレンドが本格化したのは、当戦略の判定ポイントを過ぎた後であったため、売建てポジションは構築されませんでした。

2021年5月12日の値動き

この日の米国株式市場は、米消費者物価指数が市場予想を上回る伸びとなったため、物価上昇が景気回復の重石となるとの懸念から全面的に下落する展開となりました。当戦略が段階的に売建てポジションを構築して以降も、エネルギーを除く全ての業種が下落する強いトレンドとなったため、当戦略はプラスリターンとなりました。

(出所) ブルームバーグ、シティグループ・ファースト・インベストメント・マネジメント・リミテッドのデータを基に大和アセットマネジメント作成、S&P500先物のリターンは米ドルベース

※当戦略のパフォーマンスは、トレンド・キャッチ戦略ファンドの投資対象ファンドである「米国株式イントラデイ・モメンタム・ファンド（円建て・クラスA）」におけるスワップ取引の参照指数である「米国株式イントラデイ・モメンタム・レバレッジド指数（円建て、エクセスリターン）」のパフォーマンスであり、トレンド・キャッチ戦略ファンドのパフォーマンスではありません。

※グラフ中における各判定ポイントの位置はおおよその目安を示したものです。各判定ポイントは一定の範囲内で毎営業日ランダムに変化し、正確な時刻は非公表となっています。

当戦略が奏功しやすい水準について（S&P500株価指数の単日リターン分析）

当戦略は、米国株式（S&P500株価指数）が大きく変動した局面、とりわけ大きな下落局面において、奏功する傾向があります。下記の単日のリターン分析を確認すると、過去においてはS&P500株価指数の単日リターンが±2%超に達した営業日において、当戦略が相対的に良好なリターンを創出する傾向が見てとれます。しかしながら、トレンド・キャッチ戦略ファンドの設定以降は、そのような局面の発生頻度が極端に少なくなっています。

ファンド設定以前（2008年1月4日～2020年12月15日）

S&P500のリターン	-6%未満	-6%～-4%	-4%～-2%	-2%～0%	0%～2%	2%～4%	4%～6%	6%以上
当戦略の累積リターン (合計値)	81.9%	70.0%	164.9%	-190.2%	-92.8%	82.5%	28.8%	52.4%
当戦略の平均リターン	7.4%	2.9%	1.3%	-0.1%	-0.1%	0.9%	1.4%	4.8%
当戦略の最大リターン	14.8%	6.6%	5.7%	1.8%	1.8%	3.8%	4.5%	16.7%
当戦略の最小リターン	0.0%	-2.0%	-5.9%	-10.9%	-5.7%	-9.1%	-2.2%	0.0%
営業日数	11	24	129	1311	1660	94	20	11
当戦略のリターンが プラス	9	22	102	157	303	78	14	8
ポジション構築無 当戦略のリターンが マイナス	2	1	15	779	977	5	4	3
当戦略のリターンが プラスの割合	82%	92%	79%	12%	18%	83%	70%	73%
ポジション構築無 の割合	18%	4%	12%	59%	59%	5%	20%	27%
当戦略のリターンが マイナスの割合	0%	4%	9%	29%	23%	12%	10%	0%

ファンド設定以降（2020年12月15日～2021年5月28日）

S&P500のリターン	-6%未満	-6%～-4%	-4%～-2%	-2%～0%	0%～2%	2%～4%	4%～6%	6%以上
当戦略の累積リターン (合計値)	0.0%	0.0%	4.5%	-9.0%	-4.7%	0.2%	0.0%	0.0%
当戦略の平均リターン	0.0%	0.0%	1.5%	-0.2%	-0.1%	0.2%	0.0%	0.0%
当戦略の最大リターン	0.0%	0.0%	2.2%	0.2%	0.3%	0.2%	0.0%	0.0%
当戦略の最小リターン	0.0%	0.0%	0.9%	-2.0%	-1.6%	0.2%	0.0%	0.0%
営業日数	0	0	3	47	62	1	0	0
当戦略のリターンが プラス	0	0	3	2	7	1	0	0
ポジション構築無 当戦略のリターンが マイナス	0	0	0	33	39	0	0	0
当戦略のリターンが プラスの割合	-	-	100%	4%	11%	100%	-	-
ポジション構築無 の割合	-	-	0%	70%	63%	0%	-	-
当戦略のリターンが マイナスの割合	-	-	0%	26%	26%	0%	-	-

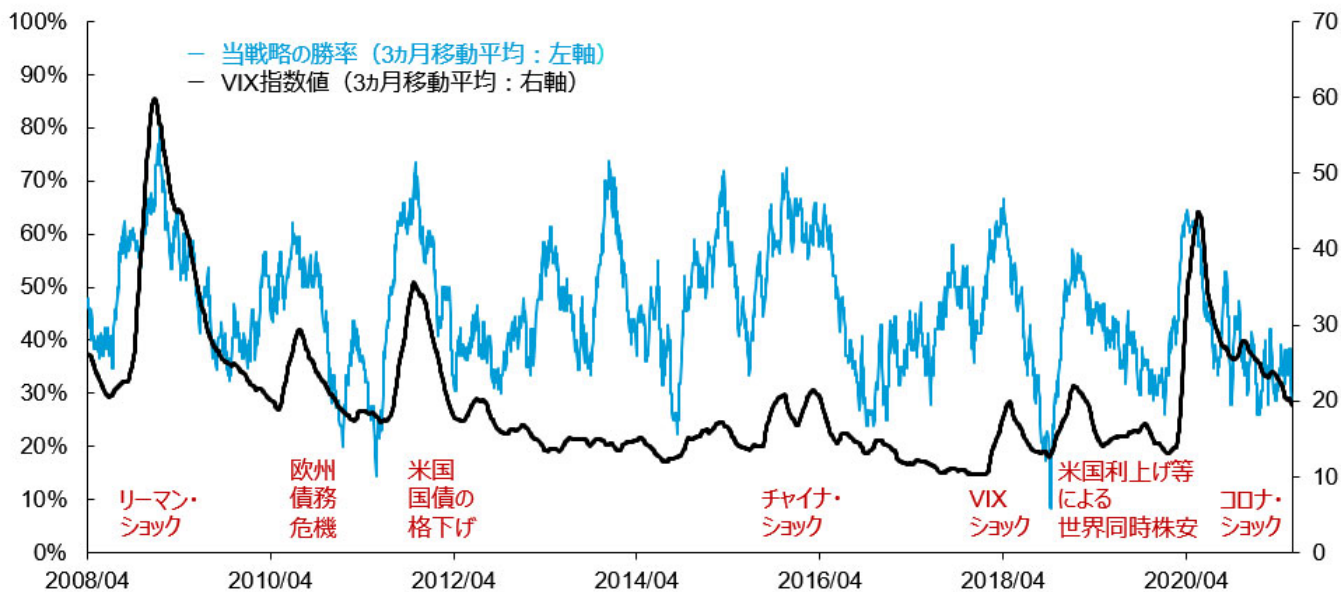
（出所）ブルームバーグ・シティグループ・ファースト・インベストメント・マネジメント・リミテッド、S&P500のリターンはS&P500株価指数の米ドルベース

※当戦略のパフォーマンスは、トレンド・キャッチ戦略ファンドの投資対象ファンドである「米国株式イントラデイ・モメンタム・ファンド（円建て・クラスA）」におけるスワップ取引の参照指数である「米国株式イントラデイ・モメンタム・レバレッジド指数（円建て・エクセスリターン）」のパフォーマンスであり、トレンド・キャッチ戦略ファンドのパフォーマンスではありません。

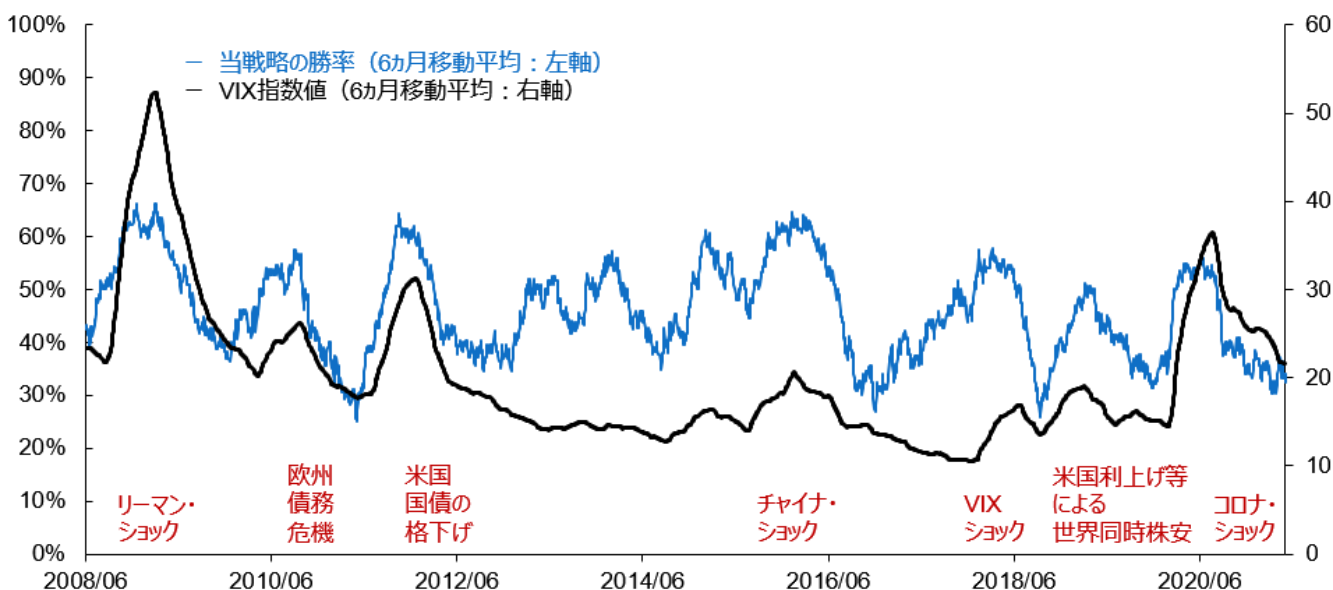
当戦略の勝率が高まる局面について（VIX指数との比較）

当戦略は、米国株式（S&P500株価指数）が大きく変動した局面、とりわけ大きな下落局面において勝率が高まる傾向にあります。また、そのような大きな下落局面においてはVIX指数が急上昇する傾向があります。VIX指数は、市場参加者が米国株式の先行きにどれほどの振れ幅を見込んでいるかを示す値であり、VIX指数が高いほど株式相場の急落や急上昇が起こる可能性が高く、VIX指数が低いほど株式相場が安定していると言えます。

当戦略の勝率とVIX指数値の関係（3か月移動平均）



当戦略の勝率とVIX指数値の関係（6か月移動平均）



（出所）ブルームバーグ、シティグループ・ファースト・インベストメント・マネジメント・リミテッド

※当戦略のパフォーマンスは、トレンド・キャッチ戦略ファンドの投資対象ファンドである「米国株式イントラデイ・モメンタム・ファンド（円建て・クラスA）」におけるスワップ取引の参照指数である「米国株式イントラデイ・モメンタム・レバレッジド指数（円建て・エクセスリターン）」のパフォーマンスであり、トレンド・キャッチ戦略ファンドのパフォーマンスではありません。

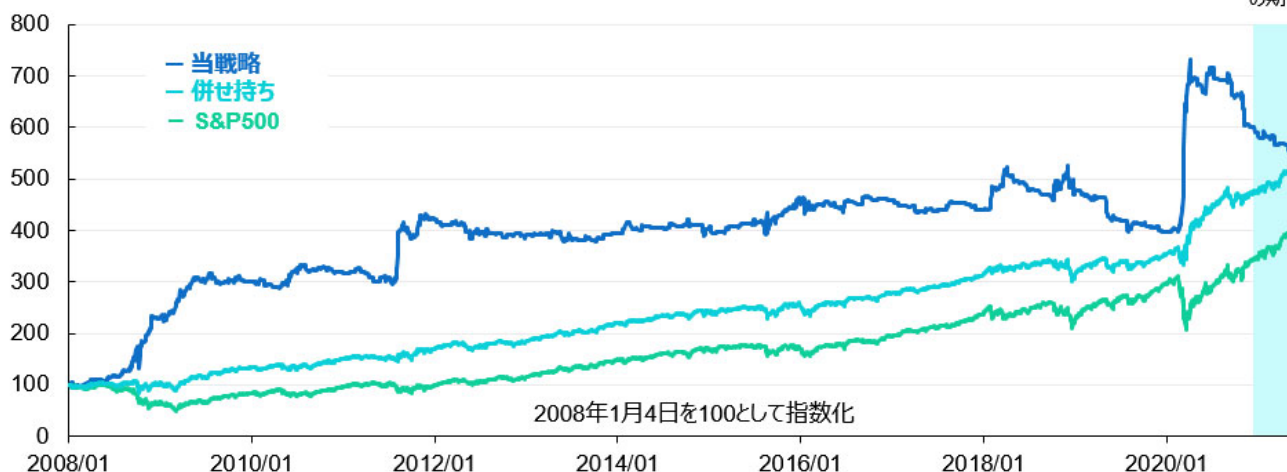
当戦略に投資をする意義

当戦略が効果を発揮しやすい米国株式の大きな下落局面が発生する頻度は、確かにそれほど多くはありません。しかしながら、大きな下落が中長期のリターン水準に与える影響は大きく、決して無視できるものではないと考えられます。例えば、長年にわたって米国株式への積み立てを行ったとしても、タイミングが悪くリーマン・ショックやコロナ・ショックのような大きな下落局面に直面してしまうと、資産の大部分を失ってしまう可能性があります。当戦略はお客様が中長期でリスク資産への投資を行い、タイミングによって過度にリターンが振らされてしまわぬよう、大きな下落局面でポートフォリオ全体の下落幅抑制効果を目指しています。

当戦略とS&P500の長期のパフォーマンス（2008年1月4日～2021年5月28日）

併せ持ちはS&P500を100%保有している際に当戦略を50%追加保有した場合（月次リバランス前提）のパフォーマンスです。

ファンド設定後の期間



リターン特性	当戦略	S&P500	併せ持ち
年率リターン	13.5%	10.8%	13.0%
年率リスク	16.7%	21.0%	14.1%
リターン / リスク	0.81	0.51	0.92
最大ドロウダウン	-25.1%	-51.5%	-22.6%

当戦略暦年パフォーマンス（2008年1月4日～2021年5月28日）

併せ持ちはS&P500を100%保有している際に当戦略を50%追加保有した場合（月次リバランス前提）のパフォーマンスです。

暦年	当戦略	S&P500	併せ持ち
2008年	127.9%	-34.5%	2.7%
2009年	31.9%	26.5%	29.1%
2010年	6.2%	15.1%	12.7%
2011年	33.0%	2.1%	13.3%
2012年	-9.8%	16.0%	6.8%
2013年	2.8%	32.4%	21.9%
2014年	2.4%	13.7%	9.9%
2015年	14.8%	1.4%	5.9%
2016年	-0.8%	12.0%	7.6%
2017年	-4.4%	21.8%	12.5%
2018年	7.1%	-4.4%	-0.2%
2019年	-15.5%	31.5%	13.7%
2020年	48.7%	18.4%	35.5%
2021年初来	-7.1%	12.4%	6.8%

（出所）ブルームバーグ・シティグループ・ファースト・インベストメント・マネジメント・リミテッド、S&P500のリターンはS&P500株価指数の米ドルベース

※当戦略のパフォーマンスは、トレンド・キャッチ戦略ファンドの投資対象ファンドである「米国株式イントラデイ・モメンタム・ファンド（円建て・クラスA）」におけるスワップ取引の参照指数である「米国株式イントラデイ・モメンタム・レバレッジド指数（円建て・エクセスリターン）」のパフォーマンスであり、トレンド・キャッチ戦略ファンドのパフォーマンスではありません。

当ファンドのポイント

①もしものの時の備え

世界的な金融危機を予測することや、新型コロナウイルスのパンデミックを予見し大きな相場下落局面を事前に乗り切ることとは大変困難です。当ファンドは、大きな下落局面で収益を獲得しやすい傾向があり、もしものの時の備えとなります。

②様々なリスク資産との併せ持ちにご活用いただけます

当ファンドは様々なリスク資産と併せ持つことで、相場下落局面におけるポートフォリオの下落幅抑制と、リスクリターンの改善効果が期待されます。

③小さな下落局面では効かない場合も

当ファンドの投資戦略は、米国株式市場の日中における株価トレンドが明確になる大きな下落局面で奏功しやすい傾向がある一方、株価トレンドが継続しにくい、あるいは反転しやすい小さな下落局面では軟調になる可能性があり、市場の下落局面で必ず上昇するとは限りません。

Ⅰ ファンドの目的・特色

ファンドの目的

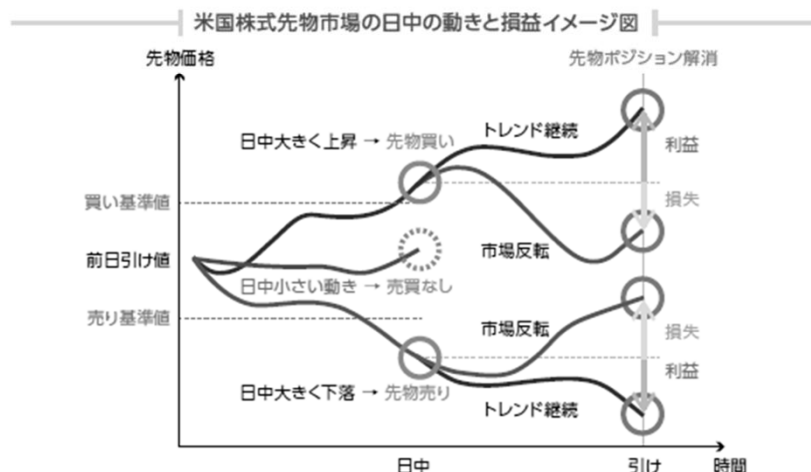
米国の株価指数先物取引の売買により信託財産の成長をめざします。

ファンドの特色

円建て短期公社債等へ投資を行なうとともに、トレンド・キャッチ戦略に基づく米国の株価指数先物取引の売買により収益の獲得をめざします。

●トレンド・キャッチ戦略とは

- 米国株式市場の取引時間内における S&P500 株価指数先物価格のトレンドを捉えることをめざします。
- S&P500 株価指数先物価格が日中に前日比で一定率以上上昇した場合には株価指数先物取引を買建て、一定率以上下落した場合には株価指数先物取引を売建てます。
- 株価指数先物取引はすべて当該取引日の取引終了までに反対売買を行なって損益を確定します。
- 株価指数先物取引の買建または売建のポジション総額は、見込み純資産総額の **3 倍程度** を上限とします。



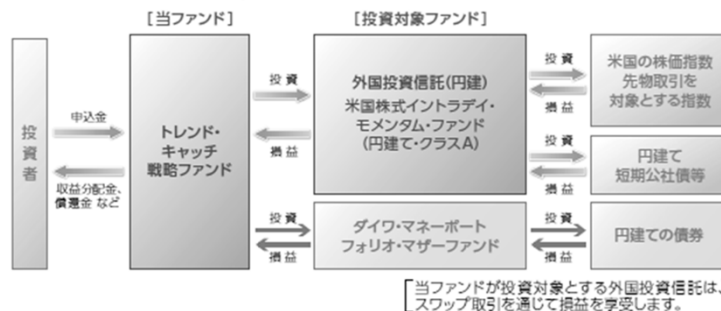
※ 上記のイメージ図は、先物価格変動の推移の例です。したがって実際の価格および基準価額の推移を示唆してはおりません。また、本戦略のすべてを説明するものではありません。

※ 当ファンドの将来の運用成果を保証または示唆するものではありません。

※ 当ファンドは、「米国株式イントラデイ・モメンタム・ファンド（円建て・クラスA）」への投資を通じて、トレンド・キャッチ戦略の実現をめざします。

ファンドの仕組み

- 当ファンドは、以下の2本の投資信託証券に投資する「ファンド・オブ・ファンズ」です。
- 外国投資信託の受益証券を通じて、円建て短期公社債等へ投資を行なうとともに、実質的に米国の株価指数先物取引を行います。
- 当ファンドが投資対象とする外国投資信託では、スワップ取引を通じて損益を享受します。



※ くわしくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の「ファンドの目的・特色」をご覧ください。

投資リスク

- 当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資元本が保証されているものではなく、これを割込むことがあります。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。基準価額の主な変動要因は、以下のとおりです。

「株価指数先物取引の利用に伴うリスク」、「公社債の価格変動（価格変動リスク・信用リスク）」、「為替変動リスク」、「カントリー・リスク」、「スワップ取引の利用に伴うリスク」、「当ファンドが実質的に活用する戦略に関するリスク」、「その他（解約申込みに伴うリスク等）」

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

くわしくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の「投資リスク」をご覧ください。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用		
	料率等	費用の内容
購入時手数料	販売会社が別に定める率 〈上限〉3.3%（税抜3.0%）	購入時の商品説明または商品情報の提供、投資情報の提供、取引執行等の対価です。
信託財産留保額	ありません。	—
投資者が信託財産で間接的に負担する費用		
	料率等	費用の内容
運用管理費用 （信託報酬）	年率 1.2375% （税抜 1.125%）	運用管理費用の総額は、日々の信託財産の純資産総額に対して左記の率を乗じて得た額とします。
投資対象とする 投資信託証券	年率 0.2%程度	投資対象ファンドにおける運用管理費用等です。
実質的に負担する 運用管理費用	年率 1.4375%（税込）程度	
その他の費用・ 手数料	（注）	監査報酬、有価証券売買時の売買委託手数料、先物取引・オプション取引等に要する費用、資産を外国で保管する場合の費用等を信託財産でご負担いただきます。

（注）「その他の費用・手数料」については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※購入時手数料について、くわしくは販売会社にお問合わせください。

※手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

※くわしくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の「手続・手数料等」をご覧ください。

販売会社：

大和証券

Daiwa Securities

商号等 大和証券株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第108号
加入協会 日本証券業協会
一般社団法人日本投資顧問業協会
一般社団法人金融先物取引業協会
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

設定・運用：

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

商号等 大和アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第352号
加入協会 一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は、ファンドの状況や関連する情報などをお知らせするために大和アセットマネジメント株式会社が作成したものです。
- 当ファンドのお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書（交付目論見書）」の内容を必ずご確認ください。
- 投資信託は値動きのある有価証券などに投資しますので、基準価額は大きく変動します。したがって、投資元本が保証されているものではありません。信託財産に生じた利益および損失はすべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。
- 投資信託は預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。証券会社以外でご購入いただいた投資信託は投資者保護基金の対象ではありません。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載する指数・統計資料などの知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。また、税金、手数料などを考慮しておりませんので、投資者の皆さまの実質的な投資成果を示すものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。記載する投資判断は現時点のものであり、将来の市況環境の変動などを保証するものではありません。
- 当資料中で個別企業名が記載されている場合、あくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。
- 分配金は収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。